

第1回「学校における働き方改革推進会議」 議事概要

日時：令和元年6月19日（水） 13：00～14：00

場所：教育委員室（奈良県庁東棟）

出席：大西会長、塩見会長代理、竹本委員、堀内委員、田中委員、松本委員、吉岡委員、西上委員、中川委員、深田委員、熊谷委員、香河委員、大石委員、植村委員、大山委員、栢木委員

1 説明

(1) 「学校における働き方改革推進会議」設置要項等について

学校の業務改善に関する推進方策に関することなど、学校における働き方改革に係る課題や取組について意見交換を行い、会議での意見を踏まえ、県教育委員会としてプランや方針を策定していくことについて事務局から説明した。

2 報告・協議

教員勤務実態調査（働き方調査）について

平成31年1～2月に実施されたアンケート調査結果の要点について事務局より報告

【主な意見】

- ・学校滞在時間について、調査結果よりも実態の方が長いように感じる。
- ・子どもと向き合う時間をどう確保するか、その分何を削っていくのかが大きな課題。
- ・中学校では、部活動については昨年度来、部活動の方針に従って進めているので、勤務実態は結構短くなっているが、生徒指導上の対応等で長くなっているという実態が見受けられるようだ。
- ・教職員数によって個人にかかってくる仕事の量が違うというのが現実。小中学校で、学校規模による教員の勤務時間や意識の差についてわかるとよい。
- ・校種や地域別、男女別の調査結果などがあるとよい。

【協議結果】

- ・アンケート結果がまとまり次第再度報告する。

(1) 学校の業務改善推進プラン（構成案）について

ワーキング部会で作成した「学校の業務改善推進プラン」（構成案）を事務局より提案

【主な意見】

- ・都市教育長協議会でも勤務時間の実態を把握する方法を検討しているところ。勤

務実態を把握しないと次の方向性が見えてこない。

- ・国の資料を見ると、中学校で1日2時間空き時間が設定できるが、小学校の場合は2日に1回、1時間ぐらいで、毎日1時間空けるのは不可能ということが分かる。学校は子どもに授業を通して力をつけていくところだとすれば、教材研究が実際できているのか心配。時間を空けることが必要なのではないか。
- ・部活動に熱心な人とそうでない人の勤務時間の差が大きい。部活動に関しては、子どもの健康を守るということと重なっているということを確認してほしい。
- ・登下校の指導等についてこれは本務ではないから地域の人やボランティアに頼るといった形だけの解決は、学校や教員に対する地域や保護者の信頼を損なう恐れがあるのではないか。

【協議結果】

- ・意見を踏まえ、ワーキングで素案を作成し、次回までに意見聴取を行う。

(2) 「教師の勤務時間の上限についての方針」(素案) について

【主な意見】

- ・特になし

【協議結果】

- ・素案について、次回までに意見聴取を行う。

3 連絡事項

- ・今後のスケジュールについて確認